北方山草（31）：7-12. March 2014

野生ユリの栽培

札幌市　荒川　克郎

日本には14種のユリが分布しており、多くは花ユリの育種親として利用されてきた。このように観賞価値の高いユリが集中して分布する日本は、ユリ王国と呼ばれてきた。ここでは、百合が原公園でのユリ栽培をもとに魅力的な日本のユリの栽培について述べたい。

エゾスカシユリ（図1）は、エニセイ川流域以東からモンゴル、沿海州、中国東北部、サハリン、オホーツク海沿岸、カムチャツカ半島、千島列島、北海道、青森県、秋田県に広く分布するユリで、Baranova（1969）によると北緯64度30分での記録があり、ユリ属で最も北に分布を広げたユリのひとつである。札幌近郊では、銭函海岸、石狩浜、聚富海岸で見られた。石狩浜では6月上旬に開花する。種子は8月下旬から放散され、地上に定着した種子は、条件が良ければ秋の冷気の中で発芽し、10月下旬には子葉の元が膨らんだ小さな鱗茎をつくっている。翌年春、ヨモギ類が芽吹く前に小さな本葉を展開する。エゾスカシユリのように子葉を開かずに子葉の元の方を膨らませる発芽は地下発芽と呼ばれ、日本のユリでは、ウケユリ、クルマユリ、タモトユリ、カノコユリが知られている。エゾスカシユリは、播種後2週間ほどで本葉を展開し始める。適度な湿り気のある土を好むので、生育期間中は水を切らさないのが肝要である。栽培下では播種から4年程度で初めての花をつけるが、初めての花は花柱を欠く場合が多い。

ウケユリ（図2）は、鹿児島県の奄美大島と近隣の請島、加計呂麻島、与論島、徳之島の固有種である。札幌では、8月上旬に直径15cmほどの漏斗形の白い花を横向きに咲かせる。乳頭状突起のない滑らかな花びらを持ち、園芸品種オリエンタルハイブリッドの育種に利用されてきた。地下速発芽型のユリとされるが、札幌では播種の翌年に発芽する場合が多い。札幌では積雪下で越冬する。暑さにも強いが、近年は本州以南では温暖化で栽培が難しくなってきており、栽培適地は限られる。札幌では播種から4-5年で開花に至る。受粉から130日ほどで種子ができるので、加温室で11月下旬に採種する。

クルマユリ（図3）は、道内の低地、山地に広く分布する。 本州では中部以北に分布し、南限は隔離的に分布する徳島県剣山、奈良県大台ヶ原山とされる。 アムール川流域、中国東北部、沿海州、サハリン、千島列島、カムチャツカ半島に分布している。札幌近郊では、7月中旬に開花する。シトラスのような香りがある。地下速発芽型のユリとされるが、札幌では、播種の翌年に発芽する場合が多い。栽培下では、播種から4-5年で開花する。鱗片には窄んだ節があって米粒大のかけらにはがれるので移植は避ける。クルマユリは、上根が発達しないので茎盤から生える下根が傷つけられると生育が衰える場合が多く、移植を嫌う。